



[全市域(オンライン参加を含む)]

1 2020/8/8 みねおか夏のワークショップ(みねおかいきいき館)

関係人口  
をつなぐ  
【教育支援ほか】

# 2020 人材育成支援プロジェクト

## 実施者

- ＜実施メンバー＞ 千葉工業大学創造工学部デザイン科学科 大嶋研究室 (代表:大嶋 辰夫 准教授)  
 千葉工業大学社会システム学部プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室 (代表:加藤 和彦 教授)  
 千葉工業大学情報科学部情報ネットワーク学科 中川研究室 (代表:中川 泰宏 助教)

## ＜協働パートナー＞

- 【行政】南房総市市民生活部市民課市民協働グループ、南房総市教育委員会子ども教育課、南房総市観光協会  
 【企業等】NPO 法人トージバ、みねおかいきいき館、楽途篠笛工房  
 【市民団体等】南房総市大井区、大井里山保全協議会

## 背景と目的、実施内容

2018年度に始められた「空き公共施設活用プロジェクト」は、活動を続けていく中で、再利用された公共施設でのオープン講座の実施や、竹資源の活用による伝統工芸品の事業化とその人材育成へとシフトしていった。2020年度は人材育成面の需要を受けて、プロジェクト名を「人材育成支援プロジェクト」へと変更した。

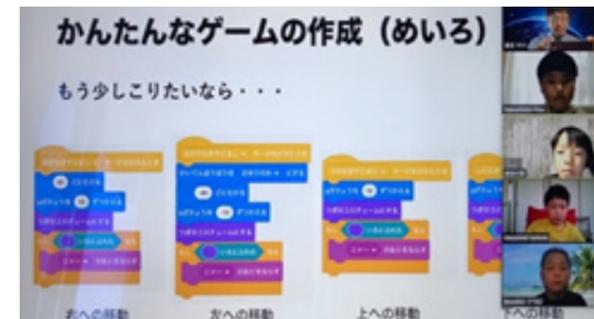
当初の計画では、これまでの活動を発展しつつ、より効果を高めていく予定であったが、2020年3月の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会的活動の制約を受けて、7月までは社会情勢を見ながら活動の機会を伺う期間となった。その後、感染リスクの明確化と感染対策指針が明示化されてきたことを受けて、8月から段階的に活動を広げていった。本年度は、人材育成の観点から多くの貢献を体験事業で行なっている「みねおかいきいき館」を主な拠点として活動を行った。以下に本年度実施した活動の概要を報告する。

## (1) オープン講座、各種イベントの開催(大嶋研、加藤研、中川研)

オープン講座の実施を通して小中高生の教育機会の向上と工学系教育の動機付けを行う人材育成支援活動である。本年度実施したオープン講座とイベントの一覧を表-1に示す。昨年度までのオープン講座は夏、冬、春など季節ごとに開催してきたが、本年度は対面での開催を見送り、3月に2件の小学生向けオープン講座をオンラインで実施した。南房総市教育委員会の協力もあり、当日は白浜小、千倉小、富浦小、三芳小、嶺南小の5校から計15名の参加があった。それ以外のイベントはみねおかいきいき館が主催するイベントへ参加・協力する形で実施している。

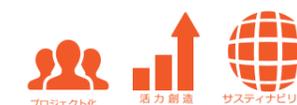
新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、8月のワークショップではオンラインコミュニケーションを体験する機会を加藤研究室が提供した。みねおかいきいき館と遠隔地を繋いだコミュニケーションの中で、学生と子供達がオンラインでなぞなぞ遊びやしりとりをするなど珍しい体験にはしゃぐ子供達の姿が見られた(図-1)。

11月のワークショップ兼シンポジウムでは、みねおかいきいき館で新たに追加された竹あかり(竹燈籠)体験用に大嶋研究室によってデザインされた竹あかりのデザインパターンなどが展示された(図-3)。また、篠笛事業に関連して篠竹の伝統工芸品化を目指した取り組みが報告され、篠笛用レーザー刻印器の試作器も展示した(図-2)。12月のワークショップには小学生およそ90名が参加し、11月に展示したデザインパターンを利用して竹あかり作りに熱中する子供達の姿が見られた。



## 域学協働の工夫!

- ★ 事業を後押しする行政との協力関係の構築
- ★ 資源を保有する地域との協力関係の構築
- ★ 実際に篠笛の制作・販売を行う篠笛事業者との協力関係の構築



## ア. 竹あかり用デザインパターンの作成(大嶋研)

2月のオンラインわくわく科学講座はコロナ禍を受けてオンライン形式でワークショップを開催した。大嶋准教授が講師を務めた「光のママ知識と光の万華鏡づくり」講座は小学校経由で事前に作成キットを配った。そして、体験日にオンライン解説とともにキットを利用してのものづくりすることで、自宅にいながワークショップ体験が楽しめる取り組みを行なった。中川助教が講師を務めた「オンラインプログラミング学習」講座では、オンラインプログラミング環境のScratchを利用して、自宅のパソコンでプログラミング体験が受講できる取り組みを行なった。

3月に行われた草木染め体験では、2月に開催したオンラインわくわく科学講座の経験を生かして、オンライン開催による小学生向けの草木染め体験を技術的に支援した(図-5、6)。初めての取り組みならではのトラブルも発生したが、体験を終えた子供達の大きく喜ぶ姿から体験自体は成功であったと言える。より完成度の高いオンラインワークショップの開催のためには継続的なノウハウの収集が必要であるが、今後のオンライン活動の可能性について期待が持てる取り組みとなった。

## (2) 竹資源の活用と人材育成支援への応用(大嶋研、加藤研、中川研)

南房総市の竹資源を有効利用し、事業化を行うことで地域の雇用とその人材育成を支援する活動である。これまでの活動で注目されてきた篠笛と竹あかりが子供たちの体験学習として期待を寄せられているため、竹あかりのデザインパターンを考案し、篠笛作りの体験メニュー化と篠竹販売に向けた取り組みが行われた。

- 2~3 2020/11/29 「竹」をテーマにしたワークショップとシンポジウム(みねおかいきいき館)  
 (2: 試作した篠笛用レーザー刻印器デモ、  
 3: 竹あかりとワークショップ用デザイン案の展示)

- 4 2021/3/8 オンラインわくわく科学講座  
 ~オンラインプログラミング学習(Zoomによるオンライン開催)~

表-1 2020年度に開催したオープン講座とイベントの一覧

実施日	実施内容	場所	参加
2020/8/8(土)	みねおか夏のワークショップ	みねおかいきいき館	30名
2020/11/29(日)	「竹」をテーマにしたワークショップとシンポジウム		30名
2020/12/22(火)	竹あかりワークショップ		90名
2021/2/21(日)	オンラインわくわく科学講座(光のママ知識と光の万華鏡づくり)(オンラインプログラミング学習)	Zoomによるオンライン開催	15名
2021/3/13(土)	「草木染め」をONLINEで体験しよう!		8名

表-2 竹あかりのデザインが利用されたワークショップの一覧

実施日	実施内容	場所	参加
2020/11/29(日)	「竹」をテーマにしたワークショップとシンポジウム	みねおかいきいき館	30名
2020/12/22(火)	竹あかりワークショップ		90名



5, 6 2021/3/13 オンライン草木染め体験 (Zoom によるオンライン開催)

12月の竹あかりワークショップには小学生90名が参加した。南房総市にちなんだデザインを複数用意し、またデザインパターンも豊富であったことから、熱心にデザインを選ぶ子供達の姿が見られた。デザインを決めた後もドリルを使って一心不乱に穴を開けて楽しそうに竹あかりを作る様子も見られた。

**イ. 篠笛作りの体験メニュー化と篠竹販売に向けた取り組み (加藤研、中川研)**

2018年度から楽達篠笛工房の支援のもと、南房総市の篠竹を商品化する試みがなされている。本年度の活動の概要を表-3に示す。本年度の活動は、地域事業への転換を目指して、篠竹採取地近くのみねおかいきいき館と協働する形で実施している(図-9、10)。さらに篠竹の品質確認を楽達篠笛工房へ依頼し、選別方法に対するフィードバックを頂いた。その結果、より厳しい選別が必要であるが、ある程度の品質が確保されていることがわかり、商品化の道も開けてきた。今後、(1) 篠笛作成体験メニュー用の素材採取、(2) 体験メニューと連動した作成キットの販売、(3) アマチュアの篠笛作成ニーズに向けた素材としての篠竹の販売、(4) 篠竹のブランド化による付加価値の創造の4つの観点から活動を広げていきたいと考えている。

表-3 篠竹事業化に向けた2020年度の取り組み

実施日	実施内容	場所
2020/11/29 (日)	「竹」をテーマにしたワークショップとシンポジウム	みねおかいきいき館
2021/1/16 (土)	篠竹の採取	南房総市大井
2021/1/17 (日)	篠竹の分割と選別	みねおかいきいき館
2021/2/8 (月)	篠竹の品質評価	楽達篠笛工房
2021/2/20 (土) 2021/3/6 (土)	篠竹の油抜き・汚れ落とし	みねおかいきいき館
2020/2/20 (土) ~2021/3/31 (水) 頃	篠竹の天日干し	

**(3) みねおかいきいき館ホームページの更改**

本年度はみねおかいきいき館と協働した活動が多く行われた。今後もみねおかいきいき館を通じて南房総市の人材育成支援のために取り組むことが計画されている。これに関連して、みねおかいきいき館の提供する体験メニューを広く認知してもらうため、みねおかいきいき館のホームページの更改作業も進めた。

**成果と課題**

**●地域貢献面**

人材育成支援活動の拠点として、本年度は大井にあるみねおかいきいき館と協働して各種イベントの開催や支援を行ってきた。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い社会的活動が大きく制約される中で例年に比べて活動数が少なくなった側面はあるものの、オンラインによるワークショップ活動とその後の発展性に貢献できたことを考慮すると、社会活動が制約される中で地域貢献のあり方が模索できたと考えることができる。

**●教育・研究面**

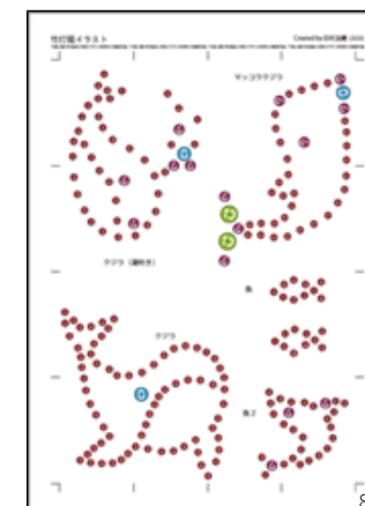
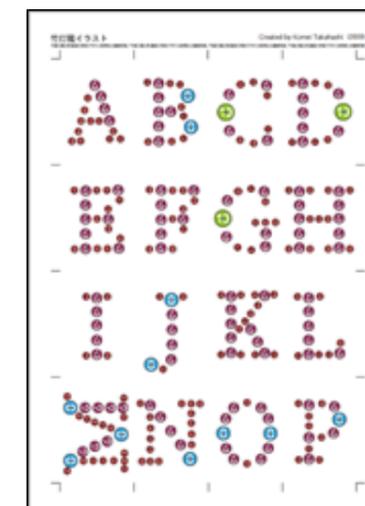
本年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会的活動の制約もあり、学生の参加が十分に行えない年となった。しかし、オンラインミーティングソフトウェアや各種オンラインツールを使った科学講座の有効性も見られたことから、オンライン活動を広げていくための第一歩が踏み出せたと考えられる。今後、より多くの参加者を伴うワークショップに対応し、多くの学生がオンラインで活躍できる地域貢献のあり方についても模索していきたい。

**今後の展開**

本年度は様々な模索が行われたが、オンライン活動の経験の少なからいくつかの課題も見受けられた。一方で地域活性化の観点で次年度の活動を広げる取り組みともなった。今後、感染症対策として有効なオンラインの取り組みを広げると同時に、篠竹の商品化に向けた取り組みを行ってゆく予定である。



7



8

7, 8 大嶋研究室で制作された竹あかりの作り方とデザインパターンの一例



9



10

9, 10 大井地区で採取した篠竹を油抜き、汚れ落とし、天日干しする様子

**\*表彰・マスコミ掲載など**

・特になし